

一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム

2019年度

# 合同成果発表会抄録集



令和2年1月26日(日)

イラスト: @いらすとや

VAB

# 目 次

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
1	<b>日本とフィリピンの学習意欲に関する調査報告</b> 北海道教育大学教育学部旭川校2年 社会科教育専攻 経済学ゼミナール 安藤怜・林賢汰・佐藤礼菜・福原彩	4
2	<b>租税教育の意義と課題</b> 北海道教育大学教育学部旭川校1年 社会科教育専攻 経済学ゼミナール 榎本菜津美・多田楓祈・吉村旭陽・藤由健太郎	4
3	<b>フィリピンの教育改革に対するシニアハイスクール教員のレディネスと 教育現場の課題</b> 北海道教育大学教育学部旭川校4年 社会科教育専攻 経済学ゼミナール 大屋 潤平	4
4	<b>東日本大震災被災地におけるボランティア：今、学生の私たちにできることは何か？</b> 旭川大学ボランティアサークル円陣～EnginE <sup>™</sup> 齊藤杏奈、稲田友紀、金相徹、浜田由真、宮下桂奈、永田圭吾、鈴木淑仁、 矢ノ目あみ、新井純可、中村里菜、趙炫相、桑島麻衣、安彩銀、市井千果、 多田愛彩	5
5	<b>「まちづくり」活動の一環としての「居場所づくり」</b> 旭川大学経済学部経営経済学科 黒川ゼミナール 星野良河、佐藤知尚、古田佑斗	5
6	<b>「ラーメン甲子園の経営学 ～顧客満足度 100%を目指す～」</b> 旭川大学経済学部経営経済学科 江口ゼミナール 瓶子遼太、岩井柊弥、佐々木湧哉、堀川太雅、岡田光清、川端はるか、申始煥 鈴木淑仁、多田衣李、多田頼輝	6
7	<b>「主体性が現れる教育実践を求めて」</b> 旭川大学経済学部経営経済学科 齋藤ゼミナール 夏井一哉、秋月俊介	6
8	<b>スマホ固定電話 -すま@フォン-</b> 旭川工業高等専門学校 システム制御情報工学科 木村至孝、山崎琢斗、伊勢谷賢司、近江雄哉、山口尚太	6

NO	演 題 ・ 所 属 ・ 氏 名	頁
9	<p>チタン酸ストロンチウム(<math>\text{SrTiO}_3</math>)薄膜の結晶成長  旭川工業高等専門学校 専攻科 生産システム工学専攻 1年 大久保 大誠</p>	6
10	<p>第4回廃炉創造ロボコン向けロボットの設計と製作  旭川工業高等専門学校 システム制御工学科 5年  山口 尚太、山崎 琢斗、伊勢谷 賢司</p>	7
11	<p>在宅看護における転倒予防のために必要な評価の視点  —在宅看護で用いる転倒スコアの作成において—  旭川医科大学 医学部看護学科 中島 綾菜、渡 日菜</p>	7
12	<p>医療系大学生の臓器提供に関する意思と死生観との関連  —家族の臓器を提供する場合の意思に注目して—  旭川医科大学 医学部看護学科 和泉佑和子、伊藤成美、山口果南</p>	7

## 演題発表1 13:00～16:00

### 1 日本とフィリピンの学習意欲に関する調査報告

所 属:北海道教育大学教育学部旭川校2年 社会科教育専攻 経済学ゼミナール  
氏 名: 安藤 怜・林賢汰・佐藤礼菜・福原彩

本報告では、日本とフィピン両国における不登校に対する学生の意識調査結果を紹介する。フィピンの学生と日本の学生の間で学習や学校に対する意識に差があるのではないかと、この疑問を検証するために、アンケート調査結果に基づいて、いくつかの仮説を立てて考察した。さらに、現地高校教員が集う教育フォーラムでの調査研究報告や教員との意見交換も行った。これらの調査研究活動に関する成果報告である。

### 2 租税教育の意義と課題

所 属:北海道教育大学教育学部旭川校1年 社会科教育専攻 経済学ゼミナール  
氏 名: 榎本菜津美・多田楓祈・吉村旭陽・藤由健太郎

講義科目「社会科学入門(財政と租税)」の受講を通じて、道内の学校で租税教室を担当されている税理士から税制の知識と教授法を学び、グループ活動形式で小学6年対象の授業づくりに取り組んだ。本報告では、学校教諭の指導目標の「主体的で対話的な学び」と、税理士による租税教室の目標の「税に対する正しい理解や納税者意識の育成」との双方を意識した授業づくりを行い、旭川市立大有小学校で授業実践の内容を紹介する。

### 3 フィリピンの教育改革に対するシニアハイスクール教員のレディネスと教育現場の課題

所 属:北海道教育大学教育学部旭川校4年 社会科教育専攻 経済学ゼミナール  
氏 名: 大屋 潤平

本研究は、フィピン政府による教育改革「K to 12」(幼稚園の義務化と基礎教育期間の2年延長)に対するシニアハイスクール(SHS)教員のレディネスと勤務環境に焦点を当てた調査である。対象はロスバニョス市内の公立のSHSに勤務する教員35名である。その結果、「K to 12」に対して大方の教員が賛成であり、研修参加を通じてレディネスができていた。しかし、教員を取り巻く職場環境に満足していないという現場の課題が浮き彫りになった。

## 4 東日本大震災被災地におけるボランティア:今、学生の私たちにできることは何か？

所 属：旭川大学ボランティアサークル円陣～EnginE～

氏 名：齊藤杏奈、稲田友紀、金相徽、浜田由真、宮下桂奈、永田圭吾、鈴木淑仁、  
矢ノ目あみ、新井純可、中村里菜、趙炫相、桑島麻衣、安彩銀、市井千果、  
多田愛彩

旭川大学震災ボランティアサークル円陣は、2011年3月13日に発足しました。3月11日の東日本大震災のあの津波の映像を見た学生の「何とかしたい」という思いが始まりです。現在では年に2回、岩手県宮古市でボランティア活動しています。今年の春には結成9年を迎えました。2月には19回目の活動を行います。

現在の岩手県宮古市は、道路や建物は復興が進み、街並みは綺麗になりました。しかし、それだけで「真の復興」といえるのでしょうか。被災した人々の心のケアはまだこれからです。私たち円陣は「学生にできることは何か」を常に探求しながら、ともに楽しい時間を過ごすことを目標にしています。私たちにとってのケアとは、「もし自分がその人だったら…」という想像力を駆使し、共感しながらかかわって、目の前の人にとって善い方向に進むお手伝いをする事です。「相手のために何ができたのか」といったことは必ずしも必要ではないと考えています。つまり、話を聞いて頷く、答えられずに沈黙する、戸惑う、ただその場にいる、「ふつうに困る」といったこともまた大事にしています。さらに被災者同士で話すより、私たちのような外部の人間と話す方が良い場合もあります。今年2月の活動では宮古市立山口小学校の子どもたちと吹奏楽を通じて交流します。

私たちは、一人でも多くの方が、1分でも長く笑えるように、これからも宮古に通います。誠実に寄り添っていきます。

## 5 「まちづくり」活動の一環としての「居場所づくり」

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 黒川ゼミナール

氏 名：星野良河、佐藤知尚、古田佑斗

近時、「まちづくり」に関して、「居場所づくり」の必要性が認識されている。もっとも「居場所」概念が不明確なために、「居場所づくり」が何を意味するのか、必ずしも判然としない。しかし、「居場所」問題が日本人の文化的心性を反映しているとの指摘がある通り、この問題の解明は日本という「国」を理解するのに有益であるといえる。本報告は、「居場所づくり」実践活動を通して、学生が学んだ「国」についての報告である。

## 6 「ラーメン甲子園の経営学 ～顧客満足度 100%を目指す～」

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 江口ゼミナール

氏 名：瓶子遼太 岩井柊弥 佐々木湧哉 堀川太雅 岡田光清 川端はるか 申始煥  
鈴木淑仁 多田衣李 多田頼

高校生が開発したラーメンの出来を競う「ラーメン甲子園」を開催した。江口ゼミの企画運営で4回目になる。テーマは地域の魅力再発見。上川エリアの9校 88人の高校生が出場した。制作指導は「ラーメンの会旭川」の事業主をお願いした。地元 70 企業に協賛をいただいた。会場には人があふれ、高校生のラーメンは 2,672 杯を売上げた。大会は大成功だった。ただし、私たちの顧客は高校生である。顧客の満足度は充たされたのか。報告したい。

## 7 「主体性が現れる教育実践を求めて」

所 属：旭川大学経済学部経営経済学科 齋藤ゼミナール

氏 名：夏井一哉、秋月俊介

齋藤ゼミは上川中学校の地域学習に関わって 3 年目になる。今年度は、上川町への提言(3年生)、観光プランづくり(1年生)の活動をしてきた。また大学祭及び中学校の文化祭において中学生発案の上川町産の餅粉を使った「もちょこ」を製作・販売を行った。この活動は中学生だけでなく私たちも自分たちの「産土」(鶴見和子)を考える大切な機会でもある。会場にいる皆様と一緒に地域における教育実践について考えていきたい。

## 8 スマホ固定電話 –すま@フォン–

所 属：旭川工業高等専門学校 システム制御情報工学科

氏 名：木村至孝、山崎琢斗、伊勢谷賢司、近江雄哉、山口尚太

振り込め詐欺等の電話を使用した詐欺に遭遇する可能性をできる限り減らすことができ、スマートフォンをこれまでの固定電話のように使用することができるソリューションに関するアイデアである。

## 9 チタン酸ストロンチウム( $\text{SrTiO}_3$ )薄膜の結晶成長

所 属：旭川工業高等専門学校 専攻科 生産システム工学専攻 1年

氏 名：大久保 大誠

現在、天然資源からなり、資源の豊富さ、高い耐熱性の点からチタン酸ストロンチウム( $\text{SrTiO}_3$ )がデバイス構築において最重要材料とされている。

また、ニオブ(Nb)を不純物として加えることで半導体となり、熱電変換材料に応用することが期待される。

本発表では、低コスト且つ安全な環境下での良質なチタン酸ストロンチウム薄膜を作製することを目的に、結晶成長条件の検討を行い、Nd:YAGレーザーを用いて成膜した薄膜の評価、考察を報告する。

## 10 第4回廃炉創造ロボコン向けロボットの設計と製作

所 属：旭川工業高等専門学校 システム制御工学科 5年

氏 名：山口 尚太、山崎 琢斗、伊勢谷 賢司

廃炉作業を想定した第4回廃炉創造ロボコンの課題を解決するために設計・製作したロボットについての取り組みである。

## 11 在宅看護における転倒予防のために必要な評価の視点

### —在宅看護で用いる転倒スコアの作成にむけて—

所 属：旭川医科大学 医学部看護学科

氏 名：中島 綾菜、渡 日菜

本研究は、訪問看護師が在宅における高齢者の転倒予防に必要な評価の視点を明確にした上で、在宅看護で用いる転倒スコアを作成することを目的として、訪問看護師に調査を実施した。方法は、上川地方に所在する3カ所の訪問看護ステーション(以下 ST)に所属する訪問看護師歴に差がある看護師を各2名、合計6名に対して自記式質問紙と半構造化面接を実施した。その結果、在宅は「転倒する環境」が多く、転倒予防に向けた環境整備が重要であること、「転倒しやすい環境」「サポート体制」に経験の差がみられたことが示された。これらの分析結果をもとに転倒リスクをスクリーニングするための在宅に特化したスコア案を作成した。今後更なる検討は必要であるが、これらのスコアにより訪問看護師歴に関係なく転倒スクリーニングが可能になると考える。

## 12 医療系大学生の臓器提供に関する意思と死生観との関連

### —家族の臓器を提供する場合の意思に注目して—

所 属：旭川医科大学 医学部看護学科

氏 名：和泉佑和子、伊藤成美、山口果南

本研究は、臓器提供者の家族が脳死と宣告された時、家族の臓器提供承諾に及ぼす影響を明らかにするために、医療系大学生に臓器提供の意思とその関連要因について調査を実施した。調査方法は、Q医科大学医学部医学科・看護学科1～4学年の学生を対象に家族の臓器提供に関する無記名自記式の質問紙調査を実施した。その結果、意思表示がない場合の家族の臓器提供の承諾に関連する要因として、①自己の臓器提供の意思表示、②家族の意思尊重、③死生観(死後の世界観)が示された。

本研究結果は、一施設での調査であり、対象者が医学生・看護学生に限定されているため一般化はできないが、今後臓器提供の有無の決断を迫られた家族に対するケアの一助になると期待される。



*WAB*



一般社団法人 旭川ウェルビーイング・コンソーシアム  
連絡先：旭川市1条通8丁目108 フィール旭川7階  
電話：0166-26-0338  
URL：<http://www.awbc.jp/>